

編集後記

本学部環境建築デザイン学科の卒業研究・卒業制作の最優秀者に贈られるメダルは、元本学科教授の故内井昭蔵先生がデザインしたもので、その表面には ARS CUM NATURA AD SALUTEM CONSPIRAT と刻まれています。この格言は、「芸術と自然は人間を健康に導く」という意味です。建築は自然とともにあるべきという、本学科の環境建築デザイン教育がめざす理念のひとつが表れているといえます。

環境科学部の教育・研究にとって、「自然とはなにか」という問題は、学科によって、分野によって、教員によって、じつに多様です。今号、環境科学部年報22号の特集テーマ「環境科学と“自然”」のように、さまざまな視点から「自然」について論考することは、環境科学部の未来を考える上でこれからも必要であると思います。

最後になりましたが、大変ご多忙にもかかわらずご執筆いただきました皆様、誠にありがとうございました。

環境科学部年報委員会

委員長 轟 慎一
委員 工藤 慎治（環境生態学科）
村上 一真（環境政策・計画学科）
永井 拓生（環境建築デザイン学科）
高倉 耕一（生物資源管理学科）

環境科学部 環境科学研究科

年報第22号 環境科学と“自然”

発行日 2018年3月31日
発行所 滋賀県立大学 環境科学部
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500
TEL 0749-28-8301
発行人 井手 慎司
印刷所 有限会社 田中印刷所

表紙写真

左上：環境学野外実習—高島市くつきの森での植物採集—のようす（環境生態学科、籠谷氏提供）
左下：環境科学部棟外壁をよじ登るハクビシン（環境動態学専攻、森井氏提供）
右上：2016年度COC研究の一環として本学教員・学生らによって建設された「ヨシドーム」。ヨシを空間構造の材料として活用した。コンペの受賞や建築専門誌に掲載等、高い評価を得ている。（環境建築デザイン学科、永井氏提供）
右下：安室川（兵庫県）（環境政策・計画学科、瀧氏提供）

裏表紙写真

左上：琵琶湖上にて 実習調査船「はっさか」から見た多景島（環境生態学科、丸尾氏提供）
左下：キャンパス内の自動撮影カメラで捉えたホンダタヌキ（生物資源管理学科、高倉氏提供）
右上：2017年度科研費研究の一環として本学教員・学生らによって建設された「ヨシパビリオン」。ヨシ原に潜り込んだような体験できる空間を作り上げた。日本建築学会のコンペで最優秀賞の評価を得ている。（環境建築デザイン学科、永井氏提供）
右下：ヨシ刈り（環境政策・計画学科、香川氏提供）